

はじめに

令和2年度は、年明けまもなく広がりだした新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける1年となった。まず2月29日（土）から、4月7日（火）の7都道府県への最初の緊急事態宣言発出を経て5月31日（日）まで臨時休館を余儀なくされた。その後第2波を経て、令和3年1月13日から第3波の影響による二度目の緊急事態宣言が発出された（2月末まで）。二度目の宣言時は休館に至らなかったものの、初回以降、来館者の激減状態やボランティア事業での対面サービスの休止は今も続いている。

しかし令和2年6月1日（月）の再開以降、来館者の安心安全確保や3密防止の観点から時間短縮および時間あたりの入館者数を制限する方式を試行したり、中止となった特別展の展示解説やハンズオンメニューの提供をホームページ上で行う「おうちで楽しむなにわ歴博」の公開、中止・延期となった特別展・特集展示に替わる特別公開「国指定重要文化財 久米田寺文書の世界」を実施したりするなど、工夫をしながら利用者サービスに努めてきた。また感染防止対策として講演会チケットや特別展観覧券のWEB予約・決済方式をいち早く導入したほか、若年層の歴史への関心浸透を目的にアニメ・ゲームとのコラボレーション事業に取り組んできた。これらの蓄積は今後の事業展開に活かしていかなければならない。

こうした厳しい状況にあるなか、令和2年度は展示改修に向けて第一歩を踏み出した年でもあった。当館は令和3年度に開館20周年を迎えるが、これまで大々的な展示改修はおこなってこなかった。その一方で博物館内外をめぐる社会状況には大きな変化がみられており、当館では展示内容にとどまらず設備・施設面でも大きな課題が浮き彫りになってきている。そこで令和2年度は利用者や職員の声をもとに現状分析と課題整理をおこない、改修の方向性を示す展示改修構想報告書をまとめたところである。令和7年度のリニューアルオープンを目標に、職員一体となってしっかりと準備を進めていきたい。

大阪歴史博物館 館長 大澤研一

展観事業

常設展示

●10階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また映像の合間には、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている5世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

●9階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では中世大坂の町の様子を、大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

●8階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、1～2ヵ月程度の期間で実施している。

●7階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を、原寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

●難波宮跡 遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち1棟が復元展示されている。

●タイムカプセルEXPO'70

昭和45年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する2,098点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には2基が埋設されているが、当博物館の1階北東のエスカレーター奥に、同型品を展示している。

常設展示更新の状況

10・9・7階常設展示において、52件の展示替えを行った。新たな取り組みとして各階を縦断する展示テーマを設け、「疫病退散の祈り」（令和2年7月1日～9月28日）、「なにわの仮装文化」（10月21日～11月23日）、「建てる－大阪職人の道具と技－」（令和3年2月17日～4月12日）を開催した。

階	コーナー	内容	期間	テーマ	
10	難波京の風景	古代難波の食にかかわる墨書土器	4月1日～	疫病退散の祈り	
10	難波京の風景	上本町遺跡出土の人面墨画土器	6月23日～9月29日		
10	難波京の風景	森の宮遺跡の墨画土器、難波宮の木製舟形	9月30日～10月11日		
10	難波京の風景	難波京朱雀大路跡出土軒丸瓦	10月13日～12月27日		
10	特設コーナー	上町台地の古墳関連遺物	4月1日～11月23日		
10	特設コーナー	古墳時代の玉	11月25日～2月1日		
10	特設コーナー	後期難波宮の重圈文鬼瓦	2月3日～	建てる	
9	四天王寺と門前町	四天王寺文書（四天王寺定書）	6月16日～8月17日	なにわの仮装文化	
9	四天王寺と門前町	小出秀政禁制	8月18日～12月22日		
9	四天王寺と門前町	安居殿田米注進状断簡	12月23日～		
9	大坂本願寺と寺内町	御文	6月16日～8月17日		
9	大坂本願寺と寺内町	証如御文章	8月19日～12月8日		
9	大坂本願寺と寺内町	絵本拾遺信長記	12月9日～		
9	天下の台所	芥子面子	10月21日～12月7日		
9	まちの生活	天神祭の船渡御図	6月24日～8月3日		
9	まちの生活	農具便利論、浪花商工銘家集、唐箕、踏車	8月5日～10月20日		
9	まちの生活	小澤華岳「蝶々踊り図巻」	10月21日～12月7日		
9	まちの生活	生玉宮末社正遷宮等練物番付	10月21日～12月7日	なにわの仮装文化	
9	まちの生活	徳川大坂城400年－なにわの人々は錦城をどうみたか－ （大坂城普請丁場割之図、大坂城跡本丸内出土三葉葵文鬼瓦、大坂城乾櫓所用「元和六年」銘輪違瓦、大坂城番の御用宿の記録、浪花百景「筋鐘御門」、戊辰戦記絵巻など）	12月9日～2月15日		
9	まちの生活	人々の信仰を集めた《四天王寺》 （「興上清雅図」より四天王寺、「神咒寺灌頂堂」瓦範など）	2月17日～	建てる	
9	町人の文化	朝鮮通信使関連資料（「松下虎図」など）	6月1日～7月27日	疫病退散の祈り	
9	町人の文化	江戸時代大坂の絵画（岡田玉山、岡田米山人、西山芳園作品など）	6月1日～8月3日		
9	町人の文化	朝鮮通信使関連資料（李元燾「虎図」など）	7月29日～9月28日		
9	町人の文化	風景画（趙陶斎「泉州真景図」など）	8月5日～12月7日		
9	町人の文化	福の神（関養州「七福神図」など）	12月9日～2月23日		
9	町人の文化	大坂ゆかりの動物絵画（玉手棠洲「竹虎図」など）	2月25日～		
9	幕末・維新の大坂	疫病関係資料（瘡神宮護符・願懸重宝記）	7月1日～10月20日		
9	幕末・維新の大坂	浪花大砂運衣装付	10月21日～12月7日		
7	近代都市の建設	近鉄百貨店阿倍野店旧館	4月1日～9月29日		建てる
7	近代都市の建設	中村順平	9月30日～2月15日		
7	近代都市の建設	上棟式道具、建具製作道具	2月17日～		
7	博覧会と大阪	日本万国博覧会パンフレット類	7月29日～2月29日		
7	博覧会と大阪	東京五輪聖火リレートーチ	3月31日～		
7	美術工芸の諸相	第五回内国勸業博覧会と藪明山による出品	4月1日～8月3日		
7	美術工芸の諸相	煙管と矢立	8月5日～2月15日		
7	美術工芸の諸相	阪井俊政の刀装具（秋冬編）	9月29日～1月11日		
7	美術工芸の諸相	樋口篁緒「住吉踊り図屏風」	10月7日～12月21日		
7	美術工芸の諸相	市松人形いろいろ	12月23日～2月15日		
7	美術工芸の諸相	阪井俊政の刀装具（冬から春編）	2月1日～		
7	美術工芸の諸相	建具雛形	2月17日～	建てる	
7	メディアと流行	阪和電気鉄道関係資料	6月1日～3月31日		
7	引札と広告	諸商の引札	7月1日～1月18日		
7	引札と広告	節分丸かぶり寿司チラシ	1月20日～3月8日		
7	引札と広告	諸商の引札	3月10日～		
7	都市の民間信仰	郷土玩具（赤物玩具、神農の虎など）	6月23日～9月29日		疫病退散の祈り
7	都市の民間信仰	小絵馬（三猿図、乳しぼり図、牛図、拝み図）	9月29日～		
7	都市の民間信仰	節分のお化け衣装	10月21日～11月23日		なにわの仮装文化
7	都市の民間信仰	住吉大社の縁起物（住吉踊、土人形・千疋猿、初辰猫、稲穂持ち鶏、蛸と猿）	11月25日～		
7	都市の民間信仰	土蔵雛形	2月17日～		建てる
7	鴻池家の生活用具	紙腔琴など	7月29日～		
7	映像コーナー	高津宮の初詣	12月16日～2月8日		
7	映像コーナー	尋常小学校の運動会	2月10日～		

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●発掘成果から考える 近世都市「おおさか」の食文化

会 期：令和2年3月4日～5月11日 <開催中止>

出 品 数：200件

担 当：安岡早穂

共 催：(一財)大阪市文化財協会※

本展では近世の「食」の面から大阪市内の発掘調査成果を解釈した。調理具・食膳具や食材などの考古遺物と、遺跡立地のそれぞれの性格とを考えあわせることで都市大坂に住む人々の食生活の特徴を示し、現在にも連なる食文化への理解を深める機会となることを目指し、陶磁器や大阪市指定文化財である魚市場跡出土木簡を陳列した。

本展は予定通り陳列を実施したが、臨時休館のため会期すべての日程の公開を中止した。関連行事として展示解説を3月21日、4月18日に予定していたが、臨時休館のため実施しなかった。また、ホームページ上に「おうちで楽しむ なにわ歴博」ネット展示として資料紹介を掲載した。

●発掘された難波京

会 期：令和2年5月13日～7月20日 <開催中止>

出 品 数：約150点

担 当：村元健一

共 催：(一財)大阪市文化財協会※

古代の難波京は都市大阪の原点であるが、藤原京や平城京に比べ不明な点が多い。2000年代以降の発掘調査と研究の進展により、難波京の範囲や具体的な遺跡の様子がかなり明らかになってきた。本展では近年の調査成果を展示するとともに、これまでの研究史をふりかえり、難波京研究の進展を示すことを目的とした。おもな展示資料は、細工谷遺跡出土の屋根材、四天王寺旧境内遺跡出土の木製壺鐙などである。

本展は開催に向け準備を進めていたが、臨時休館と準備が困難なため会期すべての日程の公開を中止した。関連行事として展示解説を5月16日、6月13日、7月11日に予定していたが、中止した。

●河内源氏1000年 壺井八幡宮の社宝

会 期：令和2年7月22日～8月24日 <開催中止>

担 当：谷口正樹

令和2年(2020)は、河内源氏の祖である源頼信が河内国古市郡壺井里に本拠地を構えた寛仁4年(1020)から1000年にあたる。壺井の地には頼信の子頼義が石清水八幡宮を勧請して成立した壺井八幡宮があり、河内源氏の守護神として長らく武家の崇敬を受け、現在に至っている。本展では、壺井八幡宮伝来の社宝を展示する予定であったが、コロナ禍が拡大するなかで、準備が困難となり、令和2年度中の開催を見合わせた。

●新発見！なにわの考古学2020

会 期：令和2年8月26日～11月9日

出 品 数：約250点

担 当：李 陽浩

共 催：(一財)大阪市文化財協会※

令和元年(2019)度に大阪市文化財協会・大阪市教育委員会が行った大阪市内の主要な遺跡発掘調査・報告を紹介した。古代の石で組まれた暗渠と出土遺物(難波宮跡)、中世の祭祀に関わって埋納された土師器(鷺洲遺跡)、近世の瀬戸内各地の多様な陶磁器・瓦類(広島藩大坂蔵屋敷跡)といった成果を含め、約250点の出土資料を発掘調査の写真パネルとともに展示した。関連行事として講演会「大阪の歴史を掘る2020」を10月10日に開催した。

●大阪の灯火具

会 期：令和2年11月11日～令和3年1月11日

出 品 数：265点

担 当：松本百合子、俵 和馬

共 催：(一財)大阪市文化財協会※

暮らしを照らす明かりは人々の夜間活動を可能にし、明かりを灯す道具である灯火具の普及は、まちの繁栄を物語る。

本展では、大阪市文化財協会・大阪市教育委員会による大阪市内の発掘調査で見つかった奈良時代から江戸時代の灯火具や発火道具などの考古資料をはじめ、当館所蔵の行灯や丸行灯商看板などの民具、油屋の店先を描いた冊子や浮世絵などの史料をあわせて公開した。さらに安堵町歴史民俗資料館のご協力により、灯心の実物を展示した。遺跡から見つかる灯火具は古代から徐々に増加し、油の生産・普及とともに豊臣期に数や種類が増え、江戸後期にピークを迎える。生活に密着したさまざまな形の灯火具から、油の流通や大阪のまちの発展をたどることができた。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示解説等は実施しなかった。

●蒐集家・高島唯峰—明治期考古学の遺産—

会 期：令和3年1月13日～3月22日

出 品 数：約200点

担 当：加藤俊吾

明治時代、日本の考古学はまだ古物趣味や珍品目当ての蒐集などと未分化な状態にあった。高島多米治(1866～1960、号：唯峰)は、そんな時代に関東地方を中心に採集活動を行った人物である。東京銀座で歯科医を営むかたわら、縄文時代の貝塚出土品を収集・蒐集することに熱中し、時には東北地方にまで足を運んだ。高島が蒐集した出土品はその後所蔵先を変えながら、現在は大阪歴史博物館に収められている。今回の展示では、高島の蒐集品を通じて採集活動の様子やコレクションがたどった経過について紹介した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示解説等は実施しなかった。

※地方独立行政法人大阪市博物館機構と一般財団法人大阪市文化財協会の包括連携協定事業として開催

●大阪市の新指定文化財

ー平成28年度から令和2年度までー

会 期：令和3年3月24日～5月17日

出 品 数：約30件（写真パネル含む）

担 当：杉本厚典・島崎未央（大阪歴史博物館）、
植木 久・佐藤 隆・田中裕子（大阪市教育委員会）

協 力：大阪市教育委員会

平成28年度から令和2年度までの大阪市指定文化財を展示した。各分野の主な出品物は、天然記念物：三木 茂博士収集メタセコイア化石標本〔大阪市立自然史博物館蔵〕（平成29年度指定）、考古資料：大坂城跡本丸内出土三葉葵文鬼瓦〔大阪市教育委員会蔵〕（平成29年度指定）、歴史資料：幕末大坂城湿板写真原板〔大阪城天守閣蔵〕（平成29年度指定）などで、芸能：上方漫才（平成28年度指定）横山ホットブラザーズ（横山アキラ氏・横山マコト氏・横山セツオ氏）の所用品等も展示した。

また、大阪市指定文化財のあゆみを紹介するために、大坂城下町跡（道修町1丁目）出土魚市場関連遺物〔大阪市教育委員会蔵〕（平成14年度）、木造男神坐像・木造男神半跏像 2 軀（今宮戎神社）（平成25年度指定）のうち木造男神坐像を併せて展示した。

さらに3月26日に令和2年度の新指定文化財が発表され、大阪市の市電関係橋梁図面〔大阪市教育委員会蔵〕一括（原図854点、青図450点）のうち、「大正橋」の図面を令和3年4月14日から展示した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示解説等は実施しなかった。

新型コロナウイルス感染状況拡大に伴い、開催準備の遂行が困難なため中止となった特集展示にかわり、臨時に下記の企画展示を実施した。

●特別公開 国指定重要文化財 久米田寺文書の世界

会 期：令和2年7月22日～8月24日

出 品 数：23点

担 当：谷口正樹

※協力：久米田寺

久米田寺は、大阪府岸和田市にある高野山真言宗の寺院で、天平10年（738）に行基によって創建されたと伝わる古刹である。

同寺には数多くの貴重な文化財が伝えられており、そのなかで「楠正成書状」など古文書29通は明治38年（1905）、国の重要文化財に指定されているが、令和2年、116通の古文書が追加指定された。

そのことを記念して本展示では、追加指定後初のお披露目として、久米田寺文書の一部を、鎌倉時代～室町時代のものを中心に展示した。

特別展

●第69回特別展

猿描き狙仙三兄弟 鶏の若冲、カエルの奉時も

会 期：令和2年2月26日～4月5日

※新型コロナウイルス感染症対策のため2月29日から臨時休館
開館日数：35日（当初予定）/3日（予定変更後）

入場者数：473人（平成31年度実績）

出 品 数：108件

図 録：A4変形判、200頁

担 当：岩佐伸一、杉本厚典、
澤井浩一

主 催：猿描き狙仙三兄弟展実行委員会（大阪歴史博物館、NHKエンタープライズ近畿）

後 援：NHK大阪放送局

協 賛：ニューカラー写真印刷株式会社

（開催内容の詳細は平成31年度年報を参照）

本展は当館での本年度の開催はかなわなかったが、熊本県立美術館での巡回開催（7月18日～9月6日）に協力した。



●第70回特別展

NHK大河ドラマ特別展「麒麟がくる」

会 期：令和2年4月25日～6月14日 <開催中止>

開館日数：46日（当初予定）

出 品 数：174件

図 録：A4変形判、244頁

担 当：豆谷浩之、松本百合子、
内藤直子、大澤研一

主 催：大阪歴史博物館、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿、読売新聞社

協 賛：NISSHA、ハウス食品グループ、三井住友海上火災保険、ロート製薬

本展は、2020年NHK大河ドラマ「麒麟がくる」に連動して、ドラマの主人公である明智光秀を中心に、彼の生きた時代や関係した人物にも焦点を当てた企画である。

明智光秀の前半生は謎に包まれている。一方、信長に仕えてからの光秀に関しては、新たな資料の発見等によって研究が進んでいる。本展では最新の研究成果を踏まえ、光秀の人物像を浮かび上がらせようとした。また、光秀の娘で細川忠興の正室となった玉（ガラシャ）、盟友であった細川藤孝、主君であり、のちに反旗を翻すことになる織田信長など、彼を取り巻く人物について、肖像画をはじめとする資料により紹介した。

そして、信長のもとでの度重なる戦いから「本能寺の変」にいたる光秀の事績を追いかけ、羽柴（豊臣）秀吉に敗れた後のエピソードについても触れた。

本展は、上記で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に鑑み、4月23日に中止を決定した。展覧会の中止に伴い、関連イベントはすべて中止となったが、中止決定前に募集を始めていた連歌実作会については、公募した連歌第三句の中から優秀作品を選定し、賞品の贈呈を行った。

◇おもな展示資料

- ・明智光秀画像 本徳寺蔵



- ・国宝 太刀 銘 長光 徳川美術館蔵
- ・熊本県指定文化財 黒糸威二枚銅具足 永青文庫蔵

◇関連イベント（当初予定）

- ・講演会「明智光秀と細川藤孝―勝竜寺城と山崎合戦―」
仁木 宏氏（大阪市立大学） 5月17日
- ・講演会「『ときは今…』明智光秀の連歌」鶴崎裕雄氏
（帝塚山学院大学） 5月24日
- ・連歌実作会～現代によみがえる「ときは今」連衆：平
野法楽連歌会 5月31日

●第71回特別展

妖怪（あやかし）―怪異をめぐる世界展―

会 期：令和2年7月18日～9月14日 <開催中止>

開館日数：52日（当初予定）

担 当：澤井浩一、俵 和馬

主 催：大阪歴史博物館

特別協力：湯本豪一記念日本妖怪博物館

本展は、今日まで伝わる多種多様な妖怪に関する資料を通して、日本人が妖怪をどのように受け入れ、文化としての妖怪がいかに大きな広がりを持つようになったかを概観するものとして企画していた。平成31年4月に広島県三次市に開館した湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）所蔵の湯本豪一妖怪コレクションから、妖怪を描いた絵画や版本、ミイラなどを通じて、日本や関西、大阪の妖怪たちの姿を紹介する予定であった。

コロナ禍が拡大するなかで、準備が困難となり、令和2年度中の開催を見合わせた。

●第72回特別展

埋忠〈UMETADA〉桃山刀剣界の雄

会 期：令和2年10月31日～12月14日

開館日数：38日間

入場者数：18,412名※

出 品 数：約90件

図 録：A4 変形判、160頁

担 当：内藤直子、寺井 誠、
豆谷浩之

主 催：大阪歴史博物館、読売
新聞社、NHK大阪放送
局、NHKエンタープ
ライズ近畿

協 賛：大和ハウス工業、非破壊検査

埋忠とは、桃山時代から江戸時代にかけて活躍した一門の名前で、中でも、刀剣、刀身彫刻、鐔に長じた埋忠明寿の作品は刀剣界で高く評価されてきた。

しかし埋忠一門は刀剣や鐔の制作だけにとどまらず、古い名刀の仕立て直しや金象嵌銘の作業、あるいは金具（鍔）の制作や名刀の記録作業など、名刀をめぐる幅広い彫金加工にも従事していた。これらの作業は明寿を含む埋忠工房全体で行われていた。

今回の展覧会では、従来から高く評価されている埋忠一門の刀剣・刀装具を紹介すると同時に、埋忠一門が手がけた、仕立て直しや金具制作、名刀の記録といった「それ以外」の活動に着目し、当時の時代背景からその実像を探った。
※本展は新型コロナウイルス感染症対策のため、日時指定券を導入し時間単位の入館者数に上限を設けた。ま



た、12月3日に大阪府の警戒基準が非常事態へ引き上げられたため、12月4日～14日の日時指定券について払戻し対応を行った。

◇おもな展示資料

- ・重要文化財 短刀 銘 山城国西陣住人埋忠明寿 慶長十三年三月日／所持埋忠彦八郎重代 個人蔵
- ・重要美術品 鳶文鐔 銘 埋忠明寿 個人蔵
- ・国宝 刀 金象嵌銘 天正十三十二月日江本阿弥磨上之（花押）／所持稻葉勘右衛門尉（名物 稲葉江）岩国美術館（柏原美術館）蔵
- ・重要文化財 短刀 無銘 貞宗（名物 太鼓鐘貞宗）個人蔵

◇関連イベント等

- ・特別展記念フォーラム「刀剣彫刻を語る」 11月7日
- ・白銀師によるトークショー「鍔（はばき）の見方、作り方」 11月14日
- ・「VR埋忠展」の製作と公開
- ・「埋忠刀譜」複製プロジェクトの実施

●特別企画展

大阪の近代化と町―水帳から公文書へ―

会 期：令和3年1月27日～3月1日

開館日数：30日

入場者数：5,477名

出 品 数：約80件

担 当：飯田直樹、阿部文和、
澤井浩一

主 催：大阪歴史博物館

この展覧会では、江戸時代の町人身分の共同体であった町が、明治以降の近代化の過程でどのように変化したのかを、明らかにした。

第1章では、豊臣秀吉による城下町建設を振り返りながら、大阪における町の成立過程について、考古資料や絵画資料を中心に確認した。続く第2章では、江戸時代に成熟した町共同体の様々な機能について、町独自の法である町式目など、もともとは町に残された文書を中心に確認した。

そして第3章では、大阪の町共同体においては、明治12年から13年（1879～1880）にかけて、以下の変化があったことを明らかにした。第一に、水帳における土地所有者名義の切り替え作業（帳切）が終了すること。第二に、町に町会という議会が導入されたこと。第三に、水帳が町の管理を離れたこと。この一連の変化を、町共同体の解体過程と理解し、このような変化をもたらした近代化の意味について考察するとともに、近年の気候変動とパンデミックという状況のなかで、町という共同体を取り上げる今日の意味についても触れた。

なお、本展では、新型コロナウイルスの感染状況に鑑みて、展示会場と同内容の解説文を付した出品リストをホームページからダウンロードできるようにするとともに、会期中途から展覧会の解説動画を館公式YouTubeチャンネルにアップし、理解の一助とした。

◇おもな展示資料

- ・近江町会議所詰書物入 個人蔵
- ・大阪市中区町名改正絵図 本館蔵
- ・地所家屋譲売買確証綴込 本館蔵（野村吉夫氏寄贈）
- ・今橋式丁目水帳 大阪市立中央図書館蔵



資料収集

令和2年度は、寄贈によって新たに240件1,405点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●令和2年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	919	0	0	919
美術	26	0	0	26
考古	10	0	0	10
民俗	2	0	0	2
芸能	361	0	0	361
建築	87	0	0	87
	1,405	0	0	1,405

●館蔵品総点数（令和3年3月31日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	82,338	9,143	86	91,567
美術	9,174	1,648	3	10,825
考古	7,100	4,765	6,178	18,043
民俗	4,839	2,485	2	7,326
芸能	11,096	1,029	3	12,128
建築	6,207	0	27	6,234
	120,754	19,070	6,299	146,123

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を7月、10月、3月の計3回実施した。また、7月から8月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

新収館蔵資料紹介

「文楽人形 上人」

西村ますみ氏寄贈

明治期の三味線名人、名庭絃阿弥（六代目豊澤広助）とその子、三代目豊澤猿二郎の關係品61件315点内のひとつで、これらの文楽人形は絃阿弥が彦六座退転の際に引き取ったものと伝わる。上人は良弁や親鸞など聖僧役に用いられる人形首で、写真家・入江泰吉が戦前に撮影した本品の首の写真が『文楽』（1954年、創元社）に掲載されている。（写真は部分）



新収館蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇大西 保氏寄贈資料

御上覧角力勝負附	1冊
相撲願書控	1冊
相撲諸事控	1冊
相撲略議鈔卷之上	1冊
相撲家伝鈔卷之下	1冊
日のへ之事他	1冊
相撲由来	1冊
相撲由来書	1冊
大阪勸進相撲最初并歳々勸進元控	1冊
優勝力士加古川への贈与品目録	1枚
15代目小野川襲名披露広告	1枚
勘定帳	1冊
中ノ島・天王寺公園使用を許可する大阪市指令	1枚
道路占用を許可する大阪市指令	1枚
昭和2年3月場所役割分担	1枚
角力歩合興行約定証	1冊
海軍記念日祝賀会天覧相撲の次第	1冊
関西秋季本場所開催に関する契約証	1冊
今上天皇即位大礼拝記	1冊
大阪本場所開催に就て	1綴
出羽海樞之助口述 相撲に関する解説	1冊
天覧に際し奉り土俵の式制を相撲協会当時の嘉例に復す	3枚
勝て兜の緒を締めよ	1冊
領収証	1枚
度数料・市外通話料受領証	1枚
相撲早わかり	1冊
下位春吉氏熱血熱涙の大演説	1冊
横綱大木戸森右衛門三回忌追善大相撲記念 大阪相撲	1冊
国技相撲	1冊
相撲展目録	1冊
相撲展覧会目録（主催名古屋新聞）	1冊
楠正儀公忠節顕彰会趣意書	1冊
入門契約書	1枚
入門契約書	1枚
昭和拾六年稼業大勘定	1枚
大東亜資源地図	1枚
花鳥図寄進に付感謝状	1枚
財団法人大日本相撲協会設立趣意書	1冊
大日本相撲協会名簿（昭和6年1月現在）	1冊
財団法人大日本相撲協会寄附行為規則	2冊
水交社奉仕人名	1冊
建設予定の大阪大国技館について	1枚
小野川家系譜	1枚
力士名書上	1枚
大日本相撲協会ノ革新二伴フ経営要領草案	1冊
饗宴案内の書状	1枚
旧大阪相撲の年寄名義の取扱につき問合せ書状	1枚
大日本相撲協会内紛問題について自身の意見を伝える書状	1枚
本場所大角力番付	1枚

小野川調五郎追善相撲興行番付	1枚
大相撲番付	1枚
大日本関西角力協会番付	1枚
大日本関西角力協会番付	1枚
一月本場所大相撲番付	1枚
大日本大相撲聯盟京都準備興行成績順位番付	1枚
春場所大相撲勝負星取表	1枚
夏場所大相撲勝負星取表	1枚
春場所大相撲勝負星取表	1枚
木村越後勸進元記念 相撲叢話	1冊
花帳	1冊
小野川辰蔵土俵歴	1枚
よろづ見立番附	1冊
家内に内密にて金子至急入用につき書状	1枚
身分証明願	1枚
端紙	135枚
大正十二年当用日記	1冊
昭和14年日記	1冊
Photo Album	1冊
伝小野川辰蔵所用トランク	1個
日本相撲連盟資格決定大相撲広告	1個
◇吉川陽子氏寄贈資料	
中国戦線従軍写真	10葉
◇齋藤吉彦氏寄贈資料	
齋藤吉雄就職活動関係書類	5点
◇山口洋子氏寄贈資料	
江月宗玩書状	1幅
◇宗教法人称名寺 代表役員 出口湛龍氏寄贈資料	
大阪歴史資料コレクション（古文書）	555点
◇奥村恵美子氏寄贈資料	
篠崎小竹漢詩屏風	1隻
◇平野 敏氏寄贈資料	
絵葉書帖	1冊
◇大澤生子氏寄贈資料	
マッチラベル帖	1冊
百貨店案内チラシ	9枚
レストランメニュー類	11部
◇畑中裕子氏寄贈資料	
日本万国博覧会写真アルバム	15冊
日本万国博覧会台紙貼り写真	9枚
日本万国博覧会写真	2枚
写真アルバム	28冊
台紙貼り写真	42枚
写真	6枚
畑中重男肖像写真	2枚
日本万国博覧会ペナント	1枚

日本万国博覧会ハンカチ	1 枚	◇公益財団法人 平野区画整理記念会館寄贈資料 唐箕	1 点
◇佐藤一郎氏寄贈資料 大阪名所	12 枚		
●美術		●芸能	
◇前田美希氏寄贈資料		◇駒澤栄一氏寄贈資料	
武者図 上田耕甫筆	1 幅	浄瑠璃床本 傾城恋飛脚 新口村之段	1 冊
紫式部図 歌川春光筆	1 枚	浄瑠璃床本 小牧山城中之段 日吉丸三	1 冊
孫悟空図 大原吞響筆	1 幅	浄瑠璃床本 絵本増補玉藻前旭袂 三段目	1 冊
花木小禽図 岸 良筆	1 幅	浄瑠璃床本 絵本太功記 尼崎之段	1 冊
八幡殿軍容図 菅 其翠筆	1 幅	浄瑠璃稽古本 傾城恋飛脚 新口村之段	1 冊
牡丹小禽図 菅 其翠筆	1 幅	浄瑠璃稽古本 絵本太功記 十段目	1 冊
滝鯉図 中島来章筆	1 幅	三代目亀登襲名披露及見台開浄瑠璃会番組 大正12年 2月17日	2 枚
雪松日出図 中島来章筆	1 幅	浄瑠璃会番組めぐり	4 枚
月下兔図 西山完瑛筆	1 幅	三代目亀登襲名寄贈目録 大正12年2月17日	1 紙
雲竜図 西山芳園筆	1 幅	三代目亀登襲名見台開祝受 大正12年2月17日	1 冊
芙蓉小禽図 長谷川玉峰筆	1 幅	三代目亀登襲名及見台開ニ付キ連中祝受控 大正12年 2月17日	1 冊
美人図 宮川長春筆	1 幅	見台開祝入費帳 大正12年2月17日	1 冊
寿老人図 森 一鳳筆	1 幅	写真 追福浄瑠璃会 常盤劇場 大正13年	1 枚
日出鶴・磯松亀図 森 一鳳筆	2 幅	写真 浄瑠璃大会 太功記	1 枚
双鹿図 森 一鳳筆	1 幅	◇隈部三矢子氏寄贈資料	
涼台俗宴之図 森 一鳳筆	1 幅	今里新地紅梅亭待合営業許可関係書類	1 綴
松に白鹿・松に蝙蝠図 森寛斎筆	2 幅	今里新地組合納涼盆踊大会記念写真	5 枚
西田家道具類控	1 冊	◇辻田英康氏寄贈資料	
西田家掛軸類帳簿	1 冊	大阪新歌舞伎座開場記念冊子	1 冊
菊図 植村久栄筆	1 幅	大阪新歌舞伎座パース図	1 枚
画稿類ほか 植村久栄所用	1 式	歌舞伎会館開館記念絵皿	1 枚
絵具 植村久栄所用	1 式	奈良ドリームランド章	1 点
◇藤井雄介氏寄贈資料		◇西村ますみ氏寄贈資料	
奥村房次郎像 鎌田巖泉筆	1 幅	三味線 名庭絃阿彌所用	1 棹
◇山添天香堂 有限会社 寄贈資料		三味線 豊澤猿二郎所用	1 棹
現故漢画名家集鑑 長島畏三編	1 幅	三味線 豊澤猿二郎所用	1 棹
		三味線 豊澤猿二郎所用	1 棹
●考古		義太夫三味線撥	4 点
◇木下悠弘氏寄贈資料		三味線木撥	2 点
青磁碗	1 点	義太夫三味線駒 豊澤猿二郎所用	40 個
唐草文軒平瓦片	1 点	文楽人形 景清	1 体
丸瓦片	1 点	文楽人形 三番叟	1 体
唐草文軒平瓦	1 点	文楽人形 累	1 体
五輪塔文軒平瓦	1 点	文楽人形 上人	1 体
唐草文軒平瓦	1 点	文楽人形 傾城	1 体
唐草文軒平瓦	1 点	文楽人形首 白太夫	1 点
唐草文軒平瓦	1 点	文楽人形首 お岩	1 点
唐草文軒平瓦 (掛瓦)	1 点	人形手	1 対
唐草文軒平瓦 (掛瓦)	1 点	人形 義経	1 体
唐草文軒平瓦 (掛瓦)	1 点	人形 静	1 体
●民俗		小笠原長生書「技芸入神」	1 面
◇堀 ユミ氏寄贈資料		豊澤団平書「飛泉漱鳴玉」付. 三絃譜	1 幅
石鹼化粧品看板 (保利新商店)	1 点	竹本撰津大掾 伊賀越沼津画賛 明治44年 4月	1 幅
		二見金四書状 竹本越路太夫宛 明治31年 3月30日	1 幅
		三代目豊澤猿二郎誓約書 大正 3年 1月 1日	1 卷

歌舞伎座一月狂言 歌川豊斎 明治35年	1 組	◇人見きく子（阪口純久）氏寄贈資料	
引札 太閤豊臣秀吉出世双六	1 枚	唄本 新大和屋少女連	1 冊
土俗玩具大番附 大正13年12月	1 枚	芦辺踊番組 明治44年～昭和12年	7 冊
斎藤清二郎 猿廻し与次郎図	1 枚	名妓集 第二輯 南地芸妓新検番 昭和13年9月	1 冊
大日本浄瑠璃太夫三味線見立鑑 明治36年1月	1 枚	雑誌「劇」合冊	1 冊
歌川広重 浄るり町繁花の図	1 枚	阪口祐三郎伝	1 冊
一人遣い図	1 枚	芸 六世尾上菊五郎	1 冊
名庭絃阿彌芸歴書上	1 紙	おどり 六世尾上菊五郎	1 冊
三代目豊澤猿二郎宛感謝状	11 枚	日本のをどり 久保田金僊	1 冊
太夫・三味線祝儀末広	8 握	鏡獅子 市川翠扇	1 冊
太夫・三味線等祝儀手拭	21 枚	幕間別冊 六代目尾上菊五郎	1 冊
三絃譜 御祝儀相生松 昭和8年	1 冊	顔のつくりかた第一輯	1 組
三味線稽古本 京鹿子娘道成寺	1 冊	宝恵駕籠	1 点
三味線稽古本 大正2年	1 冊		
袱紗 三代目豊澤猿二郎所用	1 枚	●建築	
彦六座浄瑠璃人形入通券版木	2 枚	◇古川東子氏寄贈資料	
人形浄瑠璃役割番付	103 枚	道路占用許可書	1 枚
浄瑠璃太夫三味線人形因会相撲鑑 大正4年2月	1 枚	建築許可申請書（大正15年6月25日）	1 冊
人形浄瑠璃因協会顔附 昭和32・42・49・50年	4 枚	建築許可申請書（大正15年10月28日）	1 冊
文楽合同公演ポスター 三越劇場・新橋演舞場 昭和30年11月	1 枚	建築許可申請書（昭和2年3月3日）	1 冊
二世野澤喜左衛門他襲名摺物	1 枚	建築許可申請書（昭和2年3月3日）	1 冊
四世鶴澤重造襲名摺物 昭和5年5月	1 枚	建築許可申請書（昭和2年3月16日）	1 冊
文楽舞台道具図 四ツ橋文楽座	8 枚	建築許可申請書（大正15年カ）	1 冊
文楽舞台道具図 三越劇場 昭和36年11月21日	1 枚	三ツ山商店改築設計図	6 枚
文楽道具帖	1 冊	三ツ山商店増築設計図	1 枚
豊澤猿二郎おぼえ帳 昭和29年	1 冊	平面図	1 枚
大入袋 豊澤猿二郎宛	6 枚	配電図	3 枚
専門技芸士委嘱状 大日本浄曲協会 昭和10年	1 枚	洋館建築契約書および上棟式報告書	2 枚
文楽協会技芸員契約書 昭和40年	1 組	不動産所有権移転登記申請書	1 冊
文楽座組合に関する原稿	1 組	建物所有権保存登記申請書	1 冊
スクラップブック「糊と鉋」	1 冊	大阪復興特別都市計画事業	
貸座敷関係書類 京都先斗町区域貸座敷組合	6 点	土地区割整理換地予定地指定通知書	7 枚
文楽公演プログラム・パンフレット	17 点	三ツ山邸敷地実測図	2 枚
文楽人形首絵葉書	1 組	土地調査書	1 冊
大阪テレビ放送台本 私のコレクション（24）猿	1 冊	歯科診療所休止願	1 冊
日本テレビ金曜劇場台本 人形浄瑠璃「寿式三番叟」	1 冊	建築工事写真	1 枚
豊澤猿二郎掲載等書籍	9 点	写真	51 枚
豊澤猿二郎関係写真	25 枚	腕章	1 点
切り絵 豊澤猿二郎	4 点	スタンドグラス	1 点

館蔵品の修復

令和2年度に修復した資料は次の表の通りである（3件3点）。

名称	数量	修復概要
鷹図 荷潭筆 紙本墨画	1 点	虫損の補修および軸首・軸木・環・啄木の調、保存箱製作
京坂十二景画帖	1 点	継ぎおよび亀裂個所の補修、保存箱の修理
刀・武蔵守国次	1 点	刀身の研磨、銀無垢一重鍔・白鞘の新調

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●マイクロフィルム撮影

本年度は下記の館蔵資料について撮影を行った。

- (1) マイクロフィルム撮影
 - ・本年度はマイクロフィルム撮影を行わなかった。
- (2) 写真撮影
 - ・113点（美術資料86点、工芸資料27点）
- (3) デジタルカメラ撮影
 - ・「大阪市北区野田町外四ヶ町区会議事決議録」ほか2,020コマ分を撮影し、紙焼き製本を行い、資料の活用を図った。

●図書の受入（令和3年3月31日現在）

今年新たに4,726件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈3,333件、特別観覧献本50件、移管1,128件、購入189件、自主刊行物の登録26件であった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

特別観覧

令和2年度は撮影9件（132点）、実測4件（24点）、閲覧9件（131点）、印画0件（0点）、掲載・掲出135件（315点）、放映52件（132点）、デジタルオンデマンド21件（57点）の計239件（826点）の特別観覧があった。

※（ ）内は資料点数。件数・点数ともに重複を含む。

館蔵資料の貸出し

令和2年度に他機関の貸出希望を受諾した（緊急事態宣言発出等により中止となったものを含む）資料数は下に掲げた表の通りである（11件55点）。

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
江戸東京博物館、あべのハルカス美術館、山口県立美術館	7	特別展「奇才－江戸絵画の冒険者たち－」	令和2年6月23日～11月13日
吹田市立博物館	4	春季特別展「神崎川展 川港・吹田のものがたり」＜開催中止＞	令和2年4月2日～令和2年5月13日
公益財団法人 柿衛文庫	3	「蕪村の手紙Ⅱ」＜開催中止＞	貸出せず
東京国立博物館	2	特別展「桃山－天下人の100年」	令和2年8月2日～令和2年12月16日
公益財団法人 香雪美術館	19	企画展「古に憧れて 聖徳太子から聖武天皇へ」	令和2年10月6日～令和2年12月24日
刀剣博物館	2	特別展「埋忠〈UMETADA〉桃山刀剣界の雄」	令和2年12月22日～令和3年2月26日
大阪市立美術館	2	特別展「天平礼賛」	令和2年10月19日～令和2年12月28日
岐阜市歴史博物館	10	特別展「麒麟がくる」	令和2年9月9日～令和2年11月8日
歴史館いずみさの	2	秋季展示事業「天下分け目の壺井合戦～中世から近世へ～」	令和2年10月6日～令和3年1月6日
大阪狭山市立郷土資料館	1	企画展「狭山之村 近世之図－江戸時代の歴史を紐解く」	令和2年11月18日～令和3年2月18日
大阪市立美術館	3	特別展「豊臣の美術」	令和3年3月11日～令和3年5月31日

教育普及事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、企画、計画していた事業の一部を中止した。

講座・見学会

●なにわ歴博講座

- 1月17日 第1回「生業と自然観－環境民俗学の視座から－」俵和馬 31名
- 2月21日 第2回「近世大坂における油の生産と流通」島崎未央 86名
- 3月21日 第3回「大阪の灯火具」松本百合子 48名

●館長講演会

- 7月25日 「大河ドラマに描かれない？明智光秀と大坂」大澤研一 59名
- 12月20日 「大河ドラマに描かれない？細川ガラシャと大坂」大澤研一 <開催中止>

●「なにわの日」講演会

<開催中止>

●金曜歴史講座（大阪市文化財協会と共催）

- 3月5日 「難波真人と難波」栄原永遠男（当館名誉館長、大阪市文化財協会理事長） 84名

●大阪府教職員互助組合歴史セミナー（大阪府教職員互助組合と共催）

- 2月20日 「大阪の近代化と町－水帳から公文書へ－」飯田直樹 69名

●同志社女子大学講座（同志社女子大学と共催）

<開催中止>

●考古学入門講座 なにわ考古学散歩<開催中止>

●なにわ歴博寄席2020「上方の花街」

平成31年度に延期した公演を下記の日程で開催し、感染症対策のため2回公演で実施した。

- 1月10日 落語「開口一番」月亭遊真、「たいこ腹」笑福亭呂好、「たち切れ線香」桂三風、ミニ講座「大阪の花街」澤井浩一
午前の部68名、午後の部68名

特別展・特集展示等関連の講演会・展示解説

◇特別展「麒麟がくる」

- ・連歌実作会～現代によみがえる「ときは今」(Web開催)
3月14日～5月8日 第三句募集
5月31日 最優秀賞・優秀賞発表
7月20日 連歌完成披露

◇特別展「埋忠〈UMETADA〉桃山刀剣界の雄」

- ・特別展記念フォーラム「刀剣彫刻を語る」
パネリスト：月山貞利氏（刀匠、奈良県指定無形文化財保持者）・岩崎範光氏（刀身彫刻師）・久保恭子氏（刀剣博物館） 進行：内藤直子 11月7日 96名
- ・白銀師によるトークショー「鍮（はばき）の見方、作り方」中田育男氏（白銀師） 11月14日 94名

◇特別企画展「大阪の近代化と町－水帳から公文書へ－」

- ・展示解説 展示会場での解説ができないため、解説動画をYouTubeで公開した。

◇特集展示「新発見！なにわの考古学2020」

- ・「大阪の歴史を掘る2020」講演会
「令和元年度 大阪市内の発掘調査・報告について」李陽浩、「大阪の古代史と文化財」磐下徹氏（大阪市立大学文学部 准教授）10月10日 76名

●展示解説

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は特別展・特別企画展・特集展示に伴う展示解説および毎週土曜日と日曜日の常設展示解説の実施を見合わせた。

“なにわ歴博” わくわく子ども教室事業

主に小学生・中学生を対象とし、例年では土日祝日を中心に以下の事業を実施してきたが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を見送った。

- ①手作りおもちゃで遊ぼう
- ②昔の瓦の拓本体験
- ③和同開珎の拓本でしおりをつくろう
- ④綿くり・糸つむぎ体験
- ⑤夏休みクラフト教室「近代建築ダンボールクラフト体験」
- ⑥考古学体験教室
- ⑦凧づくりと凧あげ

難波宮遺跡探訪

平時であれば、地下に保存する難波宮の遺跡ガイドツアーを学芸員とボランティアが開館日の1日6回開催（定員40名）していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は実施を見合わせた。また、12時30分～13時に実施していた5世紀の復元倉庫の公開も中止した。

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。開架図書約6,000冊の閲覧、学芸員による学習相談に応じた。新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧は中止した。検索端末を利用した館蔵図書検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーを用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心に、特集展示開催などに合わせて、「おみやげ」（7月22日～8月31日）、「大阪名所のゆかりの人物～難波宮・四天王寺・大阪城・通天閣を建立した人物を中心に～」(9月2日～10月19日)、「日本書紀～完成から1300年～」(10月21日～12月7日)、「日本の冬」(12月9日～2月15日)、「大阪笑話史～笑いが生き活きしていた時代を見てみよう～」(2月17日～4月5日)、「渋沢栄一ってどんな人？」(3月3日～4月2日)の6回の特集を企画し、関連書籍を配架した。令和2年度の入室者数は6,337名、書庫出納件数は89件、複写利用件数は315件であった。

学校連携事業

本事業は学校教育との連携をはかるために、学校における進路学習のための職場体験学習等の受け入れや大学からの博物館実習・見学実習の受け入れを例年行っている。

●学校職員の研修の受け入れ

例年、大阪市立小学校の新規採用社会体験研修や学校職員研修があるが、依頼がなかったため、本年度の受け入れは無かった。

●学校団体（小中学校および高等学校）への教育支援および職業体験の受け入れ

12月9日 大阪府立高津高等学校 1年6名 職場訪問

1月19日 大阪市立西淡路小学校 6年74名 出前授業

そのほか、出前授業1件、職業体験2件の相談があったが、新型コロナウイルス感染症拡大対策のため中止、例年職業体験の依頼がある大阪市内の中学校4校からは依頼中止の連絡があった。

●考古学体験教室

大阪市小学校社会科研究会の協力を得て、大阪市文化財協会と連携して実施しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は社会科研究会との協議の上、実施を見送った。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は11大学46名を受け入れた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度は一回あたりの参加人数を減らし、3期に分けて実施した。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。

◇9月7日～11日 大阪大学9名、奈良大学4名、京都橘大学1名、同志社大学2名

◇9月14日～18日 大阪大学9名、佛教大学2名、甲南女子大学2名、桃山学院大学1名、関西学院大学1名

◇9月21日～25日 大阪市立大学13名、大谷大学1名、帝塚山学院大学1名

◇見学実習については依頼がなかったため、本年度の受け入れは無かった。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとして、ボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。令和2年度のボランティア登録者数は197名である。

●活動

例年の当館でのボランティア活動では、「遺跡探訪・歴史を掘る班」による難波宮遺跡ガイドツアー、8階歴史を掘るコーナーでの案内・説明、「スタンプラリー・ハンズオン班」によるスタンプラリーの補助、古代装束着付け体験（大宮人になってみよう！）、墓壇の立体パズル（大極殿の土台をつくってみよう！）、江戸時代の両替体験（両替商になってみよう！）、扇による的当て体験（投扇興に挑戦！）、明治時代の双六体験（大阪名所双六をやってみよう！）、着物着付け体験（きものを着てみよう！）を行ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、前年度の令和2年2月22日以降これらの活動は休止したままで、今年度は再開することができなかった。

ただ、感染状況が比較的好転してきたことから、8月26日より週3日程度、1回当たりの人数を最大4名、時間は午後1時30分～3時30分に限定し、換気・加湿など感染防止策を徹底したうえで活動を再開させた。活動内容はパズルのクリーニングや装束の補修、すぐろくのコマ作りといったボランティア活動の備品のメンテナンスや、当館で保管している須恵器の洗浄である。また、11月12日～14日には遺跡見学ツアーで使っていた復元倉庫の清掃を行った。これらの活動は感染拡大によって12月2日～3月7日の期間は休止したものの、3月末まで週3回のペースで行われた。活動日は49日、参加者はのべ132名であった。

●研修

例年では当館特別展の見学研修、他館での見学研修、外部講師を招いての異文化理解・語学研修などを行ってきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため行わなかった。一方、当館常設展を見学する自己研修については、6月17日より再開し、のべ39名の利用があり、当館主催の講演会参加の自己研修についてはのべ51名の参加を得た。

●ボランティア懇談会

ボランティアと博物館側の意思疎通を円滑にし、より良いボランティア活動を推進していく目的で例年懇談会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、アンケートに切り替えた。

●ボランティアだよりの発行

コロナ禍で活動が大幅に制限される中で、ボランティアとの関係を保ち、館からの情報を発信できるよう、前年度の令和2年3月より『ボランティアだより』を発行し、各ボランティアに郵送している。今年度は3号～19号を発行し、再開したボランティア活動の紹介や展示の情報、学芸員のコラムなどの記事を掲載した。

●令和2年度ボランティアの登録継続

今年度のボランティア登録者に次年度以降の継続意思を確認したところ、活動辞退者が13名あり、184名を令和3年度の登録者とした。

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。前年に引き続き地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座2020「探訪 大阪城とその周辺」

大阪市立難波市民学習センターにおいて2月18日から3週連続1日2講座(計6講座)開催し、当館からは2月25日に岡本 健が「瓦からみた大坂城」と題して講演した。

●OSAKA MUSEUMS学芸員 TALK & THINK (Web開催)

大阪市博物館機構の6館の学芸員による連続講座に学芸員を派遣した。

2月21日「万葉集と難波の考古学」杉本厚典

2月28日「大大阪と環状線ー近代大阪の姿を探るー」船越幹央

●大阪フィルムアーカイブ計画 2020年度 収蔵・所蔵

フィルム上映会(大阪中之島美術館準備室、ミュージアム活性化実行委員会他と共催)

3月7日、9日・15日(追加上映) プラネット・プラス・ワン 72名

A〈戦前の大阪から〉、B〈戦後復興から高度成長期へ〉、解説:船越幹央、松山ひとみ(大阪中之島美術館準備室)

3月10日 大阪市立総合生涯学習センター 26名

Gプログラム〈映画“中之島”製作グループ作品〉、解説:船越幹央、松山ひとみ(大阪中之島美術館準備室)

3月11日 プラネット・プラス・ワン 11名

D〈80年代自主映画(1)〉、解説:田中晋平(神戸映画保存ネットワーク客員研究員)、富岡邦彦(プラネット・プラス・ワン代表/CO2事務局長)

3月12日 プラネット・プラス・ワン 9名

E〈80年代自主映画(2)〉

3月13日、14日(追加上映) プラネット・プラス・ワン 39名

C〈70年大阪万博とその後〉、F〈80年代自主映画(3)〉
A・B・Cピアノ伴奏:鳥飼りょう

●広報誌「Osaka Museums」

大阪市博物館機構内の6つの博物館・美術館と、機構と連携協定を結ぶ(一財)大阪市文化財協会の情報を掲載した広報誌13~16号を発行し、当館も情報を提供し掲載した。

●英文ガイド“Exploring Osaka's Museums”の発行

大阪市博物館機構事務局が、機構内の6館を紹介した英文ガイド“Exploring Osaka's Museums”(「大阪ミュージアム探訪」)を発行し、当館も情報を寄せた。

●Osaka Museums Cardの発行

大阪市博物館機構事務局が、機構内の博物館美術館と大阪市文化財協会の所蔵品等の解説カードを作成し発行した。当館では土偶、渾天儀、小絵馬等の5種類のカードを作成した。

●教員のための博物館の日2020

大阪市博物館機構事務局が主催し、教員向けに大阪市内の博物館・美術館を紹介する「教員のための博物館の日」に例年参加している。本年度は8月7日に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

●博物館連携組織への参画

日本博物館協会近畿ブロック、全国歴史民俗系博物館協議会近畿ブロックにおいて幹事館をつとめた。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館機構の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、本年度は大阪市立大学、大阪大学、大阪芸術大学、大阪府立大学、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪国際滝井高等学校、大阪府教育センター附属高等学校が会員となり、年間利用者は順に222名、192名、39名、45名、0名、0名、0名であった。

●大阪市立大学との連携

大阪市博物館機構が法人として大阪市立大学と締結している包括連携協定事業に基づき実施される、下記の事業に参加した。

大阪市立大学開講の博物館関連講義へ下記の学芸員を派遣した。

- ・博物館経営論:大澤研一、澤井浩一
- ・博物館資料保存論:豆谷浩之、寺井 誠
- ・博物館展示論:村元健一、飯田直樹、澤井浩一、豆谷浩之

●博学連携シンポジウム「徳川大坂城400年」(主催:大阪市立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会)

主催3者の包括連携協定企画として、1月24日に博学連携シンポジウム「徳川大坂城400年」が当館4階講堂で開催され、当館からも講師を派遣した。

- ・講演会「上町台地の地盤と大坂城本丸地区盛土の特徴」三田村宗樹(大阪市立大学)、「徳川大坂城の縄張りを読み解く」中井 均(滋賀県立大学)、「発掘調査からわかる石垣修理の歴史」櫻田小百合(大阪市教育委員会)、「徳川大坂城の作事と大工頭・中井正侶」谷 直樹(大阪くらしの今昔館)、「徳川政権成立史における『徳川再築大坂城』」宮本裕次(大阪城天守閣)、「徳川大坂城の普請と大坂町人」大澤研一
- ・ディスカッション「徳川大坂城の歴史的意義は何か。これからの研究の課題は?」

●同志社女子大学との連携(共催事業)

同志社女子大学講座(講演と博物館案内ツアー)
<開催中止>

地域・その他の連携事業

●駐大阪韓国文化院との連携

オンラインフィールドワーク「朝鮮通信使と大阪」を共同で制作し、「港から町へ」、「難波橋から宿所へ」、「宿所での滞在と交流」、「通信使の足跡ー竹林寺と係留地跡ー」、「淀川をさかのぼる」の5本の朝鮮通信使に関

する映像コンテンツをYouTube動画として駐大阪韓国文化院のホームページで公開した。(企画、解説は大澤研一)

●歴史リアル謎解きゲーム「謎の城」への参画

株式会社マッシュと連携し、大阪城公園と当館をめぐる謎解きゲーム「謎の城」in大坂城 明智光秀の危機」に参画し、館内へのクイズ設置等を実施した。(令和2年10月31日～令和3年7月18日)

●「戦国無双5」博物館応援プロジェクト

株式会社KADOKAWAと連携し、関東・中部・近畿の11施設が参加する「戦国無双5」博物館応援プロジェクト(文化庁委託事業「博物館異分野連携モデル構築事業」)に参画した。ゲームキャラクター等身大パネル・ポスター、デジタルスタンプラリーを館内設置し(令和3年3月2日～21日)、1DAYイベント(トークショー)を実施した。(3月20日、講演・トーク:谷口正樹、参加者60名オンライン参加98名)

●聖徳太子をめぐる「まち旅」プロジェクトへの参画

聖徳太子まち旅プロジェクト実行委員会に参画し、下記のイベントに館長、学芸員を派遣した。

2月6日 聖徳太子まち旅コース3 難波津モニターツアー ガイド:村元健一、松本百合子、大澤研一

3月17日 聖徳太子1400年忌 まち旅シンポジウム2021「古代史観光の未来展望」-古代のスーパー

スターをたどるマイクロリズムー(あべのハルカス25階会議室)パネルディスカッション座長:大澤研一

共催事業

●第36回歴史学入門講座実行委員会 第36回歴史学入門講座

「日韓のはざまに生きる島、対馬」村井章介氏(日本中世史) 7月4日 <開催中止>

●関西考古学の日2020(主催:「関西考古学の日」実行委員会)

例年、(一財)大阪市文化財協会に協力し参画しているが、本年度は開催中止となった。

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」は平成26年度以降、自主運営団体として活動している。当館からは役員として顧問を派遣しているほか、幹事会での助言や総会での講演、見学会への講師派遣を行ってきた。ただし今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、すべての活動を休止し、総会も幹事会による決議承認を書面にて会員に報告する形とした。活動の休止にともない平成31年度の会員資格を2年間有効(令和3年度末まで)とし、新規募集を休止したため、令和2年度の会員数は、前年度と同じ234名(家族会員を含む)であった。

令和2年度 普及事業の回数(日数)と参加者数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	講座・見学会その他	7	513
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・展示解説	3	266
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	0	0
	石組み水路公開・AR難波宮	0	0
	難波宮遺跡探訪・復元倉庫の公開	0	0
学校連携事業	学校職員の研修の受入れ	0	0
	教育支援(職場訪問)	1	6
	教育支援(出前授業)	1	74
	職業体験	0	0
	考古学体験教室	0	0
	博物館実習・見学実習の受入れ	11	46
地域・その他連携事業	共催事業ほか	5	1,240
ボランティア関連事業	ボランティア活動	49	132
合計		77	2,277

文化庁補助金による取り組み

令和2年度文化庁補助金事業「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」

平成30年度から5ヵ年計画で開始された事業で、今年度は3年目にあたる。実行委員会の構成団体は、当館および一般財団法人大阪市文化財協会・公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・地方独立

行政法人大阪市博物館機構・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館・大阪中之島美術館準備室・大阪市立科学館で、当館は中核館として参画した。

当館の関係では、大阪中之島美術館準備室と共同で、大阪の映像発掘プロジェクトとして、市民からのフィルム募集とデジタル化、及びその映像を中心とした上映会を実施した。

展示等改修計画

展示改修基本構想の策定

平成13年（2001）の開館以来、これまで大きな改修をしてこなかった当館の展示等について、関西・大阪万博開催の2025年を目途として改修計画を推進するため、今年度は「大阪歴史博物館展示改修基本構想」の策定作業を実施した。策定にあたっては、利用者調査（定性調査とN=300の定量調査）も合わせて実施し、基本構想策定の参考資料とした。

プロジェクト

●動画配信プロジェクト

インターネットを利用した当館の発信力を高めるため、動画配信プロジェクトを立ち上げた。SNSで発信する動画制作の計画、講演会等のライブ配信計画の策定を行い、当館のネットワーク環境の調査と一部整備を実施した。2月には当館公式YouTubeチャンネルを開設し、館長挨拶、特別企画展「大阪の近代化と町」の解説動画4本を制作し配信した。

●グッズ開発プロジェクト

当館の魅力あるミュージアムグッズの開発とその販売に関する計画策定、推進のためのプロジェクトを立ち上げた。民間企業によるグッズ開発をめざした調査、業者選定、販売するECサイトに関する情報収集を実施した。

●ユニークベニュープロジェクト

当館利用の新たな魅力開発、民間企業等との連携の強化を目指して、ユニークベニュー企画の立案、推進のためのプロジェクトを立ち上げた。民間企業と連携し、歴史リアル謎解きゲーム「謎の城」との連携企画、「戦国無双5」博物館応援プロジェクトへ参画、実施した。また当館独自の謎解きゲーム企画を立ち上げ、旅行会社と連携したツアーイベント企画を推進した。

新型コロナウイルス感染症対策

臨時休館後の6月1日の再開館にあたっては、大阪市博物館機構のガイドラインに沿って、エントランスでの検温、手指の消毒の実施、館内の定期的な消毒、接客職員のフェイスガード着用、展示物に影響のない範囲での施設の抗菌・抗ウイルス加工（薬品）、展示動線の変更等の種々の感染症対策を実施した。また、常設展示においても、ハンズオン展示の中止、接触が必要な展示物、展示端末等の機器類の使用中止・撤去を行った。またオンラインチケットのサービスを導入し、現金の取り扱い機会の減をめざした。

講堂、研修室、会議室の利用については、使用定員を半数以下として当館行事や貸室を実施した。

特別展示室においても、新たに人流センサーを設置し、3密防止のために空間滞留人数を把握するとともに、特別展「埋忠」では、オンラインチケットを主体とした上で、日時指定券を採用して時間単位での入場制限を実施した。

広報宣伝活動

館の活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展・特別企画展関係が141件、特集展示関係が100件、館全体に関する内容・その他が119件であった。

●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定（1回）・英語版年間展示予定（1回）・なにわ歴博カレンダー（74～76号）（6月発行号を休刊）を発行した。

その他の広報宣伝事業

●関西文化の日2020

本年度は当館では実施しなかった。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに804,097件、1日平均2,200件のアクセスがあった（前年度比で約184%）。また、1日の最大接続件数は9,164件（令和3年2月26日）であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数に含む）や、外部サービスを利用した「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

●Twitterの公開

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、積極的な発信に努めた。ツイート数は682件、3月31日現在フォロワー数は5,900名である。

●「おうちで楽しむなにわ歴博」の公開

臨時休館中、コロナ禍においても自宅で楽しむことができるコンテンツを提供するため、5月から新たにホームページ内に「おうちで楽しむなにわ歴博」を設けた。展示解説に関して、「「猿描き狙仙三兄弟」ネット展示」、「船場模型のひみつ」、「「近世都市おおさかの食文化」ネット展示」の3項目を、ハンズオンに関連して「大阪名所双六であそぼう!」、「組みひもにチャレンジ!」の2項目を掲載した。

●YouTube公式チャンネルの公開

コロナ禍におけるオンライン発信強化のため、2月から新たにYouTube公式チャンネルを開設し、館長挨拶、特別企画展の展示解説動画を公開した。

刊行物

令和2年度は下記3件を刊行した。

- 『大阪歴史博物館研究紀要 第19号』
A4判110頁、令和3年3月
- 『大阪歴史博物館館蔵資料集17 旧大阪市都市工学情報センター所蔵写真「大阪城とその周辺」』
A4判70頁、令和3年3月
- 『共同研究成果報告書15』
A4判84頁、令和3年3月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては4テーマ、基礎研究においては2テーマを実施した。但し新型コロナウイルス感染症の拡大により一部の現地調査や研究会の開催に支障が生じた課題もある。一方、平成29年度から30年度にかけて行われた共同研究「中村順平の設計活動と建築教育に関する研究」の成果を『共同研究成果報告書15』に収録した。各研究テーマは以下の通りである。

●共同研究

- ◇難波宮と東アジア都城の比較研究
担当：村元健一、李 陽浩
外部研究員：積山 洋
- ◇花月菴（田中家）史料の調査・研究
担当：飯田直樹、阿部文和、島崎未央
- ◇陶邑出土須恵器群の基礎調査
担当：安岡早穂、加藤俊吾
外部研究員：佐藤 隆（大阪市教育委員会文化財保護課）、児島大輔・杉谷香代子（大阪市立美術館）
- ◇近代大阪の茶の湯工芸に関する研究
担当：中野朋子
外部研究員：上仁理恵子（和泉市久保惣記念美術館）、内田彩加（湯木美術館）、宇野千代子（堺市博物館）、藤田 清（藤田美術館）、前崎信也（京都女子大学）、宮井肖佳（逸翁美術館）

●基礎研究

- ◇大阪と江戸、東京との都市比較史研究
担当：豆谷浩之

科学研究費助成事業による研究

【研究代表者】

- ◇基盤研究（C）：李 陽浩
「先史～古代建築におけるゴヒラ材使用の歴史的解明」
- ◇基盤研究（C）：中野朋子
「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」

- ◇基盤研究（C）：寺井 誠
「有文当て具痕跡から窺える律令国家成立前後の地方の主体性と対朝鮮半島交流の研究」
- ◇基盤研究（C）：内藤直子
研究分担者：岩佐伸一
「京金工・大月光興の研究－「文人金工」像の確立のために」
- ◇若手研究：島崎未央
「都市大坂を拠点とする油・植物の流通構造」
【外部機関の研究分担者】
- ◇基盤研究（A）：李 陽浩、村元健一
研究代表者：網 伸也（近畿大学）
「東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較的研究」
- ◇基盤研究（B）：谷口正樹
研究代表者：仁木 宏（大阪市立大学）
「中世後期から近世初頭における武家拠点形成の研究」
- ◇基盤研究（C）：飯田直樹
研究代表者：大杉由香（大東文化大学）
「子どもの命と人権に関する地域史研究－近世・近代・現代社会の連続面と断続面を考える」
- ◇基盤研究（C）：杉本厚典
研究代表者：南 秀雄（大阪市文化財協会）
「大阪中心部における5～17世紀の治水・水防遺構と都市形成過程の研究」
- ◇挑戦的研究（萌芽）：岩佐伸一
研究代表者：井上智勝（埼玉大学）
「東アジアにおける影幟を用いた人霊祭祀研究に対する方法論の構築」

個人の調査研究活動

●大澤研一

- ・専門分野
 - (1) 日本中世史
 - (2) 都市史、宗教史
 - (3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について
- ・著述
「本願寺と一向一揆 実像編」堀 新・井上泰至編『信長徹底解説 ここまでわかった本当の姿』文学通信、pp.164-173、令和2年7月
「大河ドラマには描かれない？明智光秀と大坂」『うえまち』183号、p.3、令和2年8月
「概説・明智光秀」「信長の大坂本願寺攻めと明智光秀」『NHK大河ドラマ特別展 麒麟がくる』NHK、NHKプロモーション、pp.8-11、164-174、令和2年9月
「辛基秀コレクションと記憶遺産登録資料」『ユネスコ「世界の記憶」朝鮮通信使に関する記録 日本所在記録』NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会朝鮮通信使ユネスコ連絡部会、pp.240-247、令和2年10月
「書評と紹介 中村博司著『豊臣政権の形成過程と大坂城』」『日本歴史』872号、吉川弘文館、pp.147-149、令和3年1月
「博物館の運営形態の変容と博物館活動」『歴史評論』849号、歴史科学協議会、pp.35-46、令和3年1月

「東海道の港町・桑名」『近畿文化』856号、近畿文化会事務局、pp.5-7、令和3年3月

「細川ガラシャ関係史料にみる豊臣期大坂城下町」『大阪歴史博物館研究紀要』第19号、大阪歴史博物館、pp.1-16、令和3年3月

『朝鮮通信使と大阪』27.「大坂に残った人々1－外洋船の船乗りたち－」、28.「大坂に残った人々2－船乗りたちの暮らし－」、29.「大坂に残った人々3－江戸まで行った船乗り－」、30.「大坂に残った人々4－相撲の愉しみ－」、31.「通信使を乗せた川御座船」、32.「船団の移り変わり－国書船の登場－」、33.「人々を魅了した大船団のパレード」、34.「豪華な装飾の川御座船」、35.「川御座船を提供する－積極的な大名たち－」、36.「川御座船の安全を求めて－水路の確保－」、37.「綱引きで遡上する川御座船」、38.「船上で出されたおやつは？」駐大阪韓国文化院ホームページ、令和2年4月～令和3年3月

●口頭発表

「館長講演会 大河ドラマには描かれない？ 明智光秀と大坂」大阪歴史博物館、令和2年7月25日

「信長を苦しめた大坂本願寺、そして石山合戦（大坂本願寺戦争）」シニアCITYカレッジ文学・歴史Iコース、NPO法人シニア自然大学校、プリムローズ大阪・北御堂ミュージアム、令和2年10月27日

「太閤さんのまちづくり－豊臣大坂城下町を読み解く－」大阪府高齢者大学校ローカル文化探検科、NPO法人大阪府高齢者大学校、大阪KALビル、令和2年12月9日

「歴史に学ぶ平野郷－在地都市の歩みと魅力－」大阪府高齢者大学校 大阪の史跡探訪科、NPO法人大阪府高齢者大学校、令和2年12月16日

「明智光秀と大坂－知られざる活動と人物像を探る－」泉佐野市市民大学講座 まだ知らない真の姿－AKECHI－、泉佐野市教育委員会、レイクアルスタープラザ・カワサキ生涯学習センター、令和3年1月15日

「徳川大坂城の普請と大坂町人」包括連携シンポジウム 徳川大坂城400年、大阪市立大学・大阪市博物館協会包括連携事業、大阪歴史博物館、令和3年1月24日

「細川ガラシャと大坂」南大江郷塾、南大江地域活動協議会、南大江会館、令和3年1月29日

「道明寺・小松山・若江の戦い－大坂夏の陣の実像－」大阪府高齢者大学校大阪の史跡探訪科、NPO法人大阪府高齢者大学校、堂島ビル、令和3年2月3日

●調査活動

東大阪市個人宅、融通念仏資料調査、令和2年10月24日

名古屋市興正寺、朝鮮通信使資料調査、令和3年12月12日

●その他

「伊丹空港、複雑過ぎる市境、3市の飛び地が点在」コメント、日本経済新聞、令和2年6月22日

「地域情報誌惜しむ声 コロナ影響「うえまち」休刊へ」コメント、朝日新聞、令和2年7月31日

「プロジェクトミーティング 美術館のいま(3) 大阪歴史博物館」アートエリアB1 オンライン版ラポカフェ、令和2年8月26日

「みやこじまなびvol.11 榎並地蔵周辺を歩く」コメント、広報みやこじまNo.292、令和2年9月1日

「歴史秘話ヒストリア 戦国に生きた女性 細川ガラシャ」出演、NHK、令和2年11月18日

「オンラインフィールドワーク 朝鮮通信使と大阪1～5」出演、大阪韓国文化院、令和2年11月30日

「関西タイムライン 市は1つだけど…「堺町」なぜ全国に」コメント、日本経済新聞、令和2年12月8日
「再建400年徳川大坂城深掘り」コメント、朝日新聞、令和3年2月10日

「はじまりを歩く 名字の「渡辺さん」」コメント、朝日新聞 (be on Saturday)、令和3年3月27日

●澤井浩一

●専門分野

- (1) 畿内村落における祭祀組織の研究
- (2) 近畿地方を中心とした芸能史研究
- (3) 大正・昭和初期の大阪における興行史の研究

●著述

『原寸復刻「浪花百景」集成』（第三章 作品解説編、分担執筆）創元社、令和2年11月

「酒野晶子氏インタビュー報告 企画展「中村順平－建築芸術家のドロワーイング－」『共同研究成果報告書』15、大阪歴史博物館、pp.9-18、令和3年3月

●調査活動

戦後の瀬戸物町に関するインタビュー（つば善商店 御崎正之氏）令和2年10月9日

融通念仏信仰に関する調査（東大阪市）令和2年10月24日

『陶業時報』資料調査（撮影）令和2年度中

●その他

「規模縮小の天神祭 神事ライブ配信 コロナ後の祭りの模索」コメント、産経新聞（夕刊）、令和2年7月2日
「看板で非日常演出」コメント、毎日新聞（夕刊）、令和2年8月19日

「とことん調査隊 カニや龍・・・立体看板、ミナミに集結」コメント、日本経済新聞（夕刊）、令和2年8月25日

大阪府公文書館運営懇談会委員 令和3年2月24日

●船越幹央

●専門分野

- (1) 日本近代史、文化史
- (2) 近代都市における市民生活・文化・意識の研究
- (3) 大阪・京都を中心とした市民文化の研究

●著述

『原寸復刻「浪花百景」集成』（第三章 作品解説編、分担執筆）創元社、令和2年11月

●豆谷浩之

・専門分野

- (1) 日本近世史、近世考古学 (2) 近世都市史
- (3) 武家の大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較

・著述

「光秀を迎え撃った丹波の武士・本城惣右衛門の戦い」NHK大河ドラマ特別展『麒麟がくる』図録、NHKプロモーション、pp.189-193、令和2年9月

●松本百合子

・専門分野

- (1) 考古学 (2) 仏教美術史、近世製油業の研究
- (3) 近世貿易陶磁の研究

・調査活動

安堵町歴史民俗資料館で灯火具・灯心の調査 令和2年9月27日

天理参考館で有機酸対策等の展示環境調査 令和3年3月24日

・その他

「関西タイムライン とことん調査隊 大阪、なぜアメだけ「ちゃん」他の食べ物「さん」コメント、日本経済新聞、令和2年10月20日

「聖徳太子まち旅 難波津コース」講師、令和3年2月6日

●杉本厚典

・専門分野

- (1) 日本考古学
- (2) GIS考古学、産業マップ、弥生土器・土師器の編年研究

・著述

「近世から近代の酒造業とその関連産業について」中尾芳治編『難波宮と古代都城』、同成社、pp.263-276、令和2年6月

●岩佐伸一

・専門分野

- (1) 美術史 (2) 日本絵画史
- (3) 江戸時代後期の上方の絵画

・その他

北島古美術研究所『日本近世絵画史研究』第3号、所載論文の査読

●俵和馬

・専門分野

- (1) 民俗学 (2) 環境民俗学
- (3) 自然観、生業、民具

・著述

「〈書評と紹介〉伊藤廣之著『河川漁撈の環境民俗学 淀川のフィールドから』」『民俗文化』第32号、pp.233-236、令和2年10月

『原寸復刻「浪花百景」集成』（第三章 作品解説編、分担執筆）創元社、pp.131-153、令和2年11月

・口頭発表

「民俗学実習A：和歌山県紀美野町の民俗調査報告」報告・コメント、近畿大学文芸学部

「民具・民俗について」いこま寿大学、生駒ふるさとミュージアム、令和2年11月

・調査活動

安堵町歴史民俗資料館で灯火具・灯心の調査 令和2年10月25日

●加藤俊吾

・専門分野

- (1) 考古学、考古学史、博物館史
- (2) 金属器生産に関わる研究
- (3) 古代～近世における鑄鏡研究

・著述

「大阪歴史博物館所蔵の今熊野亀塚瓦経関係資料－山根徳太郎旧蔵の拓本と瓦経片－（後編）」『大阪歴史博物館研究紀要』第19号、大阪歴史博物館、pp.(39)-(58)、令和3年3月

「ミュージアムにおける3Dモデルの公開－大阪歴史博物館の場合－」『デジタル技術による文化財情報の記録と活用3』奈良文化財研究所研究報告第27冊、奈良文化財研究所、pp.104-109、令和3年3月

●李陽浩

・専門分野

- (1) 建築史、都市史 (2) 古代東アジア建築史
- (3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究

・著述

「南禅寺大殿のゴヒラ角柱について」『日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系(60)』、日本建築学会、pp.465-468、令和2年5月

「古代建築の接地面積について」『日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠2020』、日本建築学会、pp.45-46、令和2年7月

「難波宮」広瀬和雄・山中章・吉川真司編『講座 畿内の古代学 第三卷 王宮と王都』、雄山閣、pp.62-83、令和2年11月

「難波宮：前期難波宮の建築的特質とその源流・末流」帝塚山大学考古学研究所編『シンポジウム報告書18 難波宮と藤原宮』、帝塚山大学考古学研究所・附属博物館、pp.2-14、令和3年3月

・口頭発表

「古代宮殿・都城の造営と宗教儀礼施設との関係性について」東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究、近畿大学、令和2年8月29日

●岡本健

・専門分野

- (1) 日本考古学 (2) 中近世考古学
- (3) 戦国・織豊期における造瓦活動、城郭の研究

・著述

「近世・近畿」『考古学ジャーナル』第742号（市川創・岡本健分担執筆）、ニューサイエンス社、pp.112-113、令和2年7月

「瓦漆喰痕跡からみた戦国期・織田期城郭の作事」『考古資料 [遺構・遺物・層位] から城郭建築 [作事] に迫る！ - その可能性と限界を探る -』城郭談話会、pp.154-161、令和3年3月

「淡路叶堂城跡（感応寺跡）出土瓦の再考 - 戦国期天王寺瓦工の特質解明にむけて -」『大阪歴史博物館研究紀要』第19号、大阪歴史博物館、pp.53-69、令和3年3月

● 口頭発表

「瓦からみた大坂城」ミュージアム連続講座2020「探訪 大阪城とその周辺」第2回、大阪市立難波市民学習センター 講堂、令和2年2月25日

● 調査活動

大阪市建設局測量明示課所蔵地図の調査 令和3年1月13日、26日、29日

野田城跡伝承地巡見 令和3年3月2日

● 中野朋子

● 専門分野

- (1) 美術史・服飾史
- (2) 近代工芸史、近世服飾史
- (3) 近代大阪の陶業史研究、近世後期の京坂における服飾・風俗動向の研究

● 著述

「『陶画工』藪明山とその作品製作 - 銅版を活用した下絵転写技法に関する一試論 -」『大阪歴史博物館研究紀要』第19号、大阪歴史博物館、pp.19-38、令和3年3月

「藪明山とは何者か？ - 大阪歴史博物館の資料から読み解く -」『明治工芸白眉の藝術起業家 藪明山の世界 愛蔵版』、いなほ書房、pp.212-215、令和2年11月

● 口頭発表

「知られざる近代大阪の名工たち」第53回「おたのしみ会クレマチス」、花外楼北浜本店、令和2年8月

● 調査活動

科学研究費補助金（基盤研究（C） 19K00209 「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」）により、大阪、京都、西宮で調査を行った。

公益財団法人 出光文化福祉財団、令和元年調査・研究助成「『陶業時報』のデジタルアーカイブによる近代陶磁器に関する研究」により、大阪で調査ならびにアーカイブ事業を行った。

● 教育活動

大阪藝術大学「服飾史」非常勤講師

● 阿部文和

● 専門分野

- (1) 建築史
- (2) 建築儀礼と棟札に関する研究

● 谷口正樹

● 専門分野

- (1) 日本中世史
- (2) 都市史、地域社会論
- (3) 戦国期地域社会構造の変容過程

● 著述

「観音寺と観音寺村に関する覚書」『市大日本史』23、pp.117-121、令和2年5月

「出雲三刀屋家文書 I」『大阪歴史博物館研究紀要』第19号、pp.59-70、令和3年3月

● その他

「博物館異分野連携モデル構築事業 『戦国無双 5』博物館応援プロジェクト 1日限りの特別トークショー」大阪歴史博物館、令和3年3月20日

● 内藤直子

● 専門分野

- (1) 京金工の研究
- (2) 近代大阪の工芸史研究

● 著述

「金の拵と黄金文化」『週刊日本刀』56号、デアゴスティーニ社、pp.21-24、令和2年7月

「埋忠家の周辺 - 本阿弥家と片岡家、鐔と鍔のことなど」大阪歴史博物館・刀剣博物館編『特別展埋忠〈UMETADA〉桃山刀剣界の雄』、pp.102-111、令和2年10月

「埋忠展（上）名工の技 きらめき魅了」読売新聞紙面、令和2年11月21日

「埋忠展（中）井伊家に伝わるモダン」読売新聞紙面、令和2年11月24日

「埋忠展（下）名刀の動向 貴重な記録」読売新聞紙面、令和2年11月27日

● 村元健一

● 専門分野

- (1) 歴史学
- (2) 古代の日中交渉
- (3) 難波宮と中国都城との比較研究

● 著述

「魏晋洛陽宮城の構造」中尾芳治編『難波宮と古代都城』、同成社、pp.776-789、令和2年6月

「古代朝鮮都城における中国都城の影響 - 条坊制の導入をめぐる -」柳本照男さん古稀記念論集刊行会編『柳本照男さん古稀記念論集 - 忘年之交の考古学 -』、pp.203-212、令和2年12月

● 口頭発表

「魏晋南北朝時代の都城と宗教空間」東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較的研究、近畿大学、令和2年8月30日

「大阪上町台地の考古資料の観光コンテンツ化について」聖徳太子まち旅シンポジウム 2021古代史観光は可能か？ - マイクロツーリズムと新しい巡礼の創造、あべのハルカス会議室、令和3年3月17日

● 島崎未央

● 専門分野

- (1) 日本近世史
- (2) 流通社会史、都市史、村落史
- (3) 灯明油の生産と流通

● 著述

『原寸復刻「浪花百景」集成』（第三章 作品解説編、分担執筆）創元社、令和2年11月
「和泉国における墮胎取締りと地域社会」『鳴門史学』第34集、pp.31-49、令和3年3月

● 口頭発表

「株仲間再興後の大坂における油の生産と流通構造－摂津国遠里小野村を例に－」大阪歴史学会大会準備報告、令和3年3月28日

● 調査活動

安堵町歴史民俗資料館で灯火具・灯心の調査 令和2年10月25日
学術研究助成基金助成金（若手研究 20K13191）「都市大坂を拠点とする油・種物の流通構造」により、関西を中心に調査や資料の収集を行った。

● 寺井 誠

● 専門分野

- (1) 考古学
- (2) 日本列島と朝鮮半島の交流史
- (3) 当て具痕跡を基にした各地の土器の製作技法比較

● 著述

「上町台地北端及びその周辺に加耶系軟質土器－タタキメ及び当て具痕跡の観察を基に－」中尾芳治編『難波宮と古代都城』、同成社、pp.174-184、令和2年6月

「日本列島と朝鮮半島の木製有文当て具についての基礎的研究」『大阪歴史博物館研究紀要』第19号、大阪歴史博物館、pp.17-364、令和3年3月

● 口頭発表

「有文当て具痕跡を基にした畿内への搬入須恵器の基礎的研究」一般社団法人日本考古学協会第86回総会研究発表（令和2年5月24日発表予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により大会中止）

● 調査活動

科学研究費補助金（基盤研究（C）19K01106「有文当て具痕跡から窺える律令国家成立前後の地方の主体性と対朝鮮半島交流の研究」）により下記の資料調査を行った。

岡山県備前市邑久窯跡群出土資料（岡山理科大学）

令和2年12月1日

岡山県瀬戸内市寒風窯跡群など出土資料（瀬戸内市教育委員会） 令和2年12月2日

藤井寺市小山遺跡など出土資料（藤井寺市教育委員会） 令和2年12月7日

羽曳野市野々上遺跡など出土資料（羽曳野市教育委員会） 令和2年12月21日

兵庫県加古川市礼馬窯跡群出土資料（大阪大谷大学）

令和3年2月25日

● 八木 滋

● 専門分野

- (1) 日本近世史 (2) 流通社会史、都市史
- (3) 市場社会、両替商、都市開発

● 飯田直樹

● 専門分野

- (1) 歴史学 (2) 日本近現代史
- (3) 都市史、社会福祉史

● 著述

「おすすめ図書 大阪ソーシャルワーカー協会編『大阪の誇り 福祉の先駆者たち』（晃洋書房、2013年）」『ボランティアだより』③、p.3、令和2年4月

「大阪を襲ったスペイン・インフルエンザ」『ボランティアだより』④、p.2、令和2年5月

「近代大阪の「福祉」と民衆世界」『歴史科学』第241号、pp.2-14、令和2年5月

「大阪府方面委員制度の歴史的な性格」『部落問題研究』第233輯、pp.77-101、令和2年5月

「大阪歴史博物館「なにわ歴史塾」での子ども向けサービス」『図書館雑誌』第114巻第6号（通巻1159号）、pp.312-313、令和2年6月

「故酒井学芸員の遺稿集刊行に寄せて」『ボランティアだより』⑦、p.3、令和2年7月

「現代歴史学の課題－「生存の歴史学」と「民衆的伝統」をめぐって－」塚田孝先生退職記念論集刊行委員会編『共同の営為としての歴史学－現代社会と歴史学－（塚田孝先生退職記念論集）』、pp.182-186、令和2年7月

「阪和電鉄と砂川遊園」『ボランティアだより』⑨、p.2、令和2年8月

「展示評 「横浜の大火と消防の近代史」」『歴史学研究』999号、pp.53-55、令和2年8月

「大阪・花月菴（田中家）史料群緊急レスキュー調査について」『都市・周縁〈史料と社会〉科研NL』第4号、pp.3-4、令和2年9月

「大阪歴史博物館 大阪市中央区町名改正絵図（学芸員のおススメコレクション）」『いちょう並木』453号、p.13、令和3年2月

「捨て子と町（ちょう）－特別企画展に寄せて－」『ボランティアだより』⑩、pp.3-4、令和3年2月

「大阪における町共同体研究の課題と展望－「大阪の近代化と町－水帳から公文書へ－」展を終えて－」『都市・周縁〈史料と社会〉科研NL』第10号、pp.2-10、令和3年3月

「明治期孤児院と財団法人弘済会の創設」『大阪歴史博物館研究紀要』第19号、pp.1-15、令和3年3月

「コラムⅣ 泉州の草相撲」和泉市史編さん委員会編『和泉市の近現代（和泉市の歴史8）』和泉市、pp.364-371、令和3年3月

● 口頭発表

「都市下層社会における子どもと福祉」政治経済学・経済史学会福祉社会研究フォーラム、オンライン開催、令和2年8月29日

「都市下層社会における子どもと福祉：方面活動を中心にして」政治経済学・経済史学会福祉社会研究フォーラム、オンライン開催、令和2年9月27日

「都市下層社会における子どもと福祉：方面活動を中心にして」政治経済学・経済史学会秋期学術大会パネルディスカッション、オンライン開催、令和2年

10月24日

「コメント 日本社会福祉史における留岡幸助」、政治経済学・経済史学会福祉社会研究フォーラム、オンライン開催、令和2年11月21日

「大阪の近代化と町 -水帳から公文書へ-」大阪府教職員互助組合主催「歴史セミナー」大阪歴史博物館、令和3年2月20日

「日本における社会国家化と児童福祉：小河滋次郎の思想と行動」論文集『戦間期日本とヨーロッパにおける「子どもの権利」(仮称)』研究会、オンライン開催、令和3年2月27日

「町共同体の解体と捨て子養育の変容 -孤児院の設立と相互扶助の行方-」近世・近代の「行き倒れ」「子ども福祉」科研共同報告会、オンライン開催、令和3年3月23日

●調査活動

大阪上本町・花月菴(田中家)土蔵内史料群緊急レスキュー調査 令和2年8月3日・28日

大阪上本町・花月菴(田中家)土蔵建物調査 令和2年9月11日

●その他

「大阪のまちの形成と「相撲」コメント、『上町台地今昔タイムズ』16、令和3年3月

●安岡早穂

●専門分野

(1) 考古学

(2) 前近代の漁撈活動、食文化にかかわる研究

●著述

「発掘成果から考える 近世都市「おおさか」の食文化」『陶説』805、日本陶磁研究会、pp.34-41、令和2年5月

●調査活動

堺市陶邑出土の須恵器に関する研究のため、京都、奈良で資料調査および過去の発掘調査に関する資料収集、研究会・資料見学会への参加を行った。

令和2年度大阪歴史博物館入場者数

月	令和2年度 常設展					令和2年度 特別展					合計	その他入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	1,238	143	1,381	781	2,162	0	0	0	0	0	2,162	0
7	1,815	161	1,976	905	2,881	0	0	0	0	0	2,881	246
8	2,542	387	2,929	1,552	4,481	0	0	0	0	0	4,481	701
9	2,302	223	2,525	2,226	4,751	0	0	0	0	0	4,751	694
10	2,393	1,214	3,607	3,199	6,806	647	50	697	67	764	7,570	851
11	3,231	414	3,645	5,250	8,895	11,421	1,074	12,495	1,391	13,886	22,781	1,326
12	1,099	211	1,310	1,337	2,647	2,889	307	3,196	566	3,762	6,409	640
1	1,198	133	1,331	597	1,928	0	0	0	0	0	1,928	820
2	2,874	352	3,226	1,517	4,743	0	0	0	0	0	4,743	768
3	3,331	519	3,850	2,367	6,217	0	0	0	0	0	6,217	671
合計	22,023	3,757	25,780	19,731	45,511	14,957	1,431	16,388	2,024	18,412	63,923	6,717
										総合計	70,640	

※その他入場には、2・4階貸室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数などが含まれる。

※8月11日 臨時開館

※令和2年2月29日～令和2年5月31日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

受嘱・派遣・視察

受嘱

期間	内容	担当者
令和2年6月1日～令和3年3月20日 令和2年5月29日～令和4年3月31日	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 複製品制作（刀装具資料）の指導監修 大阪商工会議所 大阪検定委員	内藤直子 大澤研一

派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
7/18	熊本県立美術館	岩佐伸一
9/16	NHK大阪放送局	大澤研一
2/5	あいおいニッセイ同和損保	大澤研一

視察受入

日付	来訪者	人数（大人）	人数（高校生）	対応者
3月19日	広島県総務局経営企画チーム	2		総務課

博物館相当施設の指定

令和3年3月31日付けで、博物館法第29条に規定する博物館に相当する施設として指定された。

利用規程

大阪歴史博物館利用規程
制定 平成31年4月1日

(趣旨)

第1条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）の利用に関しては、この規程の定めるところによる。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）

(2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、博物館の館長（以下「館長」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、事前に又は速やかに理事長の承認を得て同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 館長は、前項の休館を行う場合、事前に又は速やかにその内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第3条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第3条第2項の規定により読み替えられた第2条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第4条 別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第5条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用を許可しない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき
- (5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第6条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第4条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この規程に違反し、又はこの規程に基づく指示に

従わないとき

(意見の聴取)

第7条 館長は、必要があると認めるときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう理事長に求めるものとする。

2 理事長は、前項の規定による求めがあったときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第8条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認めるとき

(特別観覧の許可)

第9条 博物館等資料について特別の観覧をしようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 特別の観覧に関する手続きについては、別に定める。

(貸出しの許可)

第10条 博物館等資料の貸出しを受けようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 博物館等資料の貸出しに関する手続きについては、別に定める。

(利用料金)

第11条 博物館を観覧し、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、館長に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

2 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料 1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、別に定める種別に応じて館長が要項で定める金額）

3 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

4 施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 理事長は、前3項の承認（貸出し料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

- 6 館長は、公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、別に定める要項に基づき、利用料金を減額し、又は免除することができる。
- 7 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。
- (1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
 - (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、館長がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
 - (3) その他館長が特別の事由があると認めるとき

(特別設備)

第12条 使用者は、館長の許可を受け、特別の設備をすることができる。

2 館長は、使用者に対して必要な設備をすることを命ずることができる。

3 使用者が前第1項、第2項の規定により、特別の設備をしたときは、使用後直ちにこれを撤去して、原状に復さなければならない。

(損害の賠償及び事故の責任)

第13条 博物館を観覧する者又は施設の使用の許可を受けた者が建物、設備又は博物館等資料を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

2 使用者は、使用に関して生じた一切の事故につき、その責めを負うものとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程の施行期日は、平成31年4月1日とする。
- 2 本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

別表第1（第4条、第11条関係）

区分	施設使用料
講 堂	1室1日につき 36,000円
第1研修室	1室1日につき 15,200円
第2研修室	1室1日につき 8,200円
第1会議室	1室1日につき 7,500円
第2会議室	1室1日につき 7,000円
第3会議室	1室1日につき 7,300円
特別展示室	1室1日につき 96,800円

別表第2（第11条関係）

区分		観覧料	団体（20人以上）観覧料
常 設 展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特 別 展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

運営組織

大阪歴史博物館は、大阪市が設立する地方独立行政法人大阪市博物館機構が設置し、管理運営を行う。

組織

館 長	大澤研一			
総務課	課 長	佐藤周平		
	課長代理	大垣伸二		
	係 長	羽室有加里		
	主 任	山本幸恵		
	係 員	川端優子	古賀寿生	
		樋口祥子	加藤晶子	
尾崎雄二		小川泰伸		
西村安希子				
企画広報課	課 長	船越幹央		
	企画広報係	係 長	杉本厚典	
		主任学芸員	岩佐伸一	
		係 員	俵 和馬	
	情報資料係	係 長	加藤俊吾	
		主任学芸員	李 陽浩	
		係 員	岡本 健	
			小林佳美	
			宮下愛子	
		研究主幹	豆谷浩之	
学芸課		課 長	澤井浩一	
	課長代理	松本百合子		
	学芸第1係	係 長	松本百合子（兼務）	
		主任学芸員	中野朋子	
		係 員	阿部文和	
	学芸第2係	係 長	谷口正樹	
		主任学芸員	内藤直子	
		係 員	村元健一	
	学芸第3係	係 員	島崎未央	
		係 長	寺井 誠	
		係 員	八木 滋	
			飯田直樹	
			安岡早穂	
		柴田善美		

人事

新規採用（令和2年4月1日）

館 長 大澤研一
 企画広報課 係 員 岡本 健
 学 芸 課 係 員 谷口正樹
 総 務 課 係 員 加藤晶子
 尾崎雄二

退 職（令和2年9月30日）

総 務 課 係 員 古賀寿生

新規採用（令和2年12月1日）

総 務 課 係 員 小川泰伸

退 職（令和2年12月31日）

総 務 課 課長代理 大垣伸二

新規採用（令和3年1月1日）

総 務 課 係 長 羽室有加里
 係 員 西村安希子

退 職（令和3年3月31日）

学 芸 課 係 員 柴田善美